

令和元年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

部会一丸となって規模拡大、高品質・長期安定出荷を実現

○氏名又は名称 島原雲仙農協雲仙ブロッコリー部会（代表 本多 幸成）

○所在地 長崎県雲仙市

○出品財 経営（ブロッコリー）

○受賞理由

・地域の概要

雲仙市は島原半島の北西部に位置し、当部会の主な活動地域である雲仙市北西部では、平均気温17.6℃、日照時間約2,900時間、平均降水量1,897mmと気象条件に恵まれており、露地野菜を中心に、施設野菜や畜産が盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

当部会の活動地域では、過去にばれいしょが広く栽培されていたが、価格低迷や高齢化による労力負担により、昭和50年代頃からブロッコリー等の軽量作物の導入が進められた。平成9年の基盤整備事業の開始とともに、機械化体系の確立、全量共同選別出荷体制の整備等の取り組みを進め、30年には、作付面積166.8ha（H19：83.7ha）、部会員52名（H19：38名）となっている。

・受賞者の特色

（1）高い組織力と若手農業者の活躍

9割以上が専業農家である当部会は、30名がほぼブロッコリー専作経営で、部会活動（技術講習の実施、生育状況、販売実績の確認等）は高い参加率となっている。特に下部組織の若手後継者会（24名、平均年齢34.5歳）は、病虫害対策、品種・作型検討の栽培試験等を自主的に行うことで、若手農業者の定着・育成や部会の規模拡大、安定生産などの部会発展に大きく貢献している。

（2）規模拡大、高品質・長期安定出荷の取組

① 部会員が中心となり合意形成を進め、9年から2地区（計154ha）の基盤整備を順次進めるとともに、セル苗育苗、半自動移植機等の導入による機械化体系の確立、全量共同選別出荷体制の整備等により、1戸当たりの平均作付面積は、整備前の約1.2haから整備後には約3.2haまで急速に拡大した。

② 品種や栽培技術の検討等により作型分散、周年栽培体系を確立し、長期安定出荷（10月～6月）を実現した。また、集荷場までの断熱シートの利用、真空予冷の実施、氷詰め発泡容器での出荷など、収穫から出荷まで徹底した品質管理を実施し、市場からの評価も高い。

・普及性と今後の発展方向

当部会は、モデル産地として県内外の視察を多く受け入れており、特に県内他産地のブロッコリー作付面積、出荷量の拡大に大きく寄与している。

今後は、近隣地区でも栽培が拡大し、更なる部会員の増加が期待されるとともに、若手の育成、ドローン等を活用した防除等の省力化を進め、産地の拡大・強化を図っていく。